

令和6年8月26日
農産園芸課
経営普及課

収穫期に近い「こしいぶき」の速やかな収穫と丁寧な乾燥・調製を呼びかけています

8月23日に県内で異常高温と強い乾燥が発生し、また、27日は最高気温が35℃の高温が予想されていることから、収穫期に近い「こしいぶき」では胴割粒の発生する危険性が高まっています。

玄米の品質低下を防止するため、別紙「異常高温・高飽差緊急情報 第1号」により、農業者へ対し、可能な限り速やかな収穫と丁寧な乾燥・調製を呼びかけています。

○ 技術対策の内容

別紙「異常高温・高飽差緊急情報 第1号」のとおり

なお、上記対策は、以下の県ホームページでもご覧いただけます。

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/nouen/r6inasaku.html>



<本件についての問い合わせ>

農産園芸課 参事(稲作振興担当) 瀧澤

(直通) 025-280-5810 (内線 2923)

経営普及課 参事(稲作技術統括) 樋口

(直通) 025-280-5841 (内線 3072)

異常高温・高飽差緊急情報(第1号)

令和6年8月26日
新潟県農林水産部

台風10号の影響により、8月27日は高温が予想されています。

収穫期に近いこしいぶきでは、胴割粒発生の危険性が高まっています。

籾の黄化割合を確認し、速やかに収穫してください。

気象状況

- 8月23日に異常高温と強い乾燥が発生し、こしいぶきの胴割粒発生の危険水準 9 g/m^3 を超える日平均飽差^{注)} が県内5地点で観測されました。
- 8月27日は最高気温が 35°C の高温が予想されています。
- 台風10号が発生しており、30日に暴風域に入る可能性があります。

注) 飽差は空気の乾燥程度を示す指標。数字が大きいほど乾燥程度が大きい。

当面の管理対策

- 収穫間近の水稻(出穂後積算気温 900°C 頃、籾水分が 22% 未満) が強い乾燥に遭遇すると胴割粒が発生しやすくなります。
- 籾を確認し、黄化率 80% 以上で、籾水分 22% 未満の場合は、既に乾燥に遭遇しており胴割れ粒の発生が懸念されるので、できる限り速やかに収穫してください。
- 収穫時の籾水分が低い場合や胴割れが懸念される籾は、毎時乾燥速度が 0.5% 以下になるよう送風温度を低めに設定して丁寧に乾燥しましょう。
- 乾燥機に2段乾燥機能や休止乾燥機能があれば利用しましょう。

台風10号が接近しています。気象情報をこまめに確認し、荒天となる前に作業を終了し、安全確保を優先しましょう。

参考資料

県内アメダス観測地点（10 地点）における日平均飽差

(g/m³)

地点名	弾崎	村上	相川	新潟	新津	三条	長岡	柏崎	大潟	高田
8/23 (金)	8.9 ○	6.8 ○	9.1 ●	10.5 ●	7.8 ○	9.8 ●	10.5 ●	6.0 ○	6.4 ○	10.1 ●

数値下の記号について 6.0 未満：なし 6.0 以上 9.0 未満：○ 9.0 以上：●

この値は、日平均気温・日平均湿度から日平均飽差を計算した実測値です。

過去のデータについては、下記ホームページに掲載しています。

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/nouen/r6inasaku.html>



飽差 (g/m³) とは

1 立方メートルの空気中に、あと何グラムの水蒸気を含むことができるかを示す値のことで、空気の乾燥程度を表しています。この数値が大きいほど、空気中により多くの水分を含むことができ、渇きやすい状態であることを示します。

飽差と胴割粒の関係

胴割粒は、出穂後の高温や収穫期頃の乾燥、刈遅れ等で発生します。収穫期近くの籾水分が 22 % 未満に低下した時期に、高い飽差に遭遇すると胴割粒が急増することが分かっています。この時の飽差のめやすは、「こしいぶき」、「コシヒカリ」では 9 g/m³ 以上、「新之助」では 6 g/m³ 以上です。胴割粒の発生を抑えるため、出穂後積算気温 800 °C から飽差を確認し、この条件に遭遇した場合は 900 °C を収穫開始期として早期に収穫を開始しましょう。

農業総合研究所研究成果「フェーン現象や乾燥による胴割粒の多発を抑制する早期収穫判断のめやす」を参考にしてください。

<https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/attachment/336549.pdf>